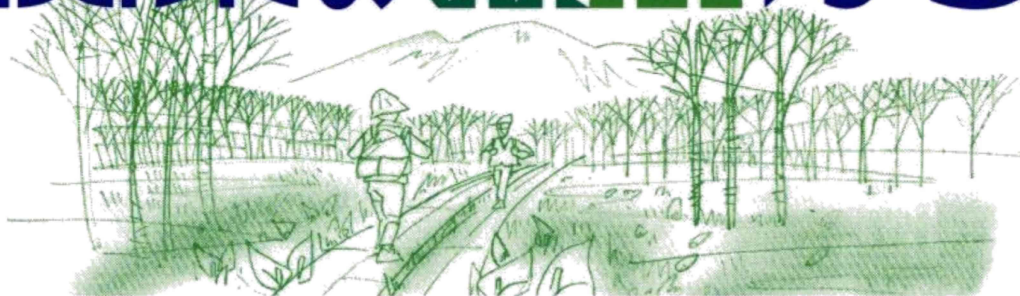


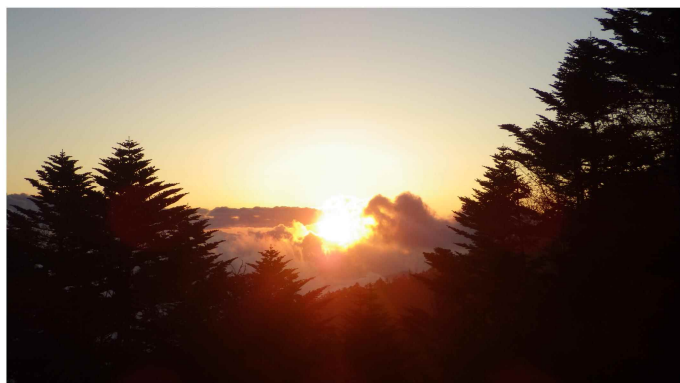
# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158  
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



「日本百名山の甲武信岳山頂」  
「甲武信小屋からの日の出」・「荒川水源の碑」  
埼玉森林管理事務所

- ◎ 民国連携推進地区での取組 技術普及課・・・2
- ◎ 都市部における木造建築 東京事務所・・・4
- ◎ 小笠原の豊かな自然を後世に残すために ～台風21号が小笠原に与えた影響～  
小笠原諸島森林生態系保全センター・・・6
- ◎ 森づくり最前線 下越森林管理署 佐和田森林事務所 森林官 中西智也・・・7
- ◎ 新型コロナウイルス感染症に伴う木材需給動向と国有林材の供給調整の取組  
資源活用課・・・8



# 民国連携推進地区での取組み

## 技術普及課

### 【民国連携推進地区の設定による民有林との連携】

関東森林管理局では平成28年度より市町村森林整備計画を樹立する市町村の中から「民国連携推進地区」を設定し、都県の森林総合監理士等と森林管理署等の森林技術指導官等が連携・協力して技術的支援等を実施しています。

現在、30市町村を民国連携推進地区に設定し、市町村森林整備計画の作成の支援や、地域での林業行政の課題の解決に取り組んでいます。

民国連携推進地区における各署等の取組みについて紹介すると下記のとおりとなっています。

- 民有林集約化施業のための森林共同施業団地の設定及び運営
- 地域一体となった獣害対策の促進
- GNSS・UAVの活用による林況把握
- 市町村森林整備計画の作成支援
- 急峻な地形に対応した作業システム(架線系&車両系)の確立
- 現地検討会による低コスト・省力化施業について民有林への普及活動(伐採と造林の一貫作業システム、エリートツリー、下刈の省力化、列状間伐、獣害対策(防護柵と単木保護資材によるトータルコストの低減等))
- 民国連携システム販売の推進
- レクリエーション利用に向けた森林整備
- C材等の販路拡大
- 広葉樹の販路拡大等

これらの課題について、都県の森林総合監理士等と連携して取り組んでいきます。

なお、取組みにあたり地域別に5つのグループに分け、国有林職員によるWEBミーティングを4半期単位に行いながら取組みを進めていきます。



ドローン飛行撮影の実施



QGISの知識を習得するための勉強会



下刈の省力化のための現地検討会



生産性向上のための現地検討会



【森林総合監理士等の連携強化】

民有林と国有林の担当者の連携を強化し、情報の共有や技術支援を連帯して行い、更には人材育成も担うことを目的として、平成31年2月に「関東森林管理局フォレスター連絡会」が設立されました。

その後、森林管理署段階でも平成31年3月に「かながわフォレスターズネットワーク（神奈川県・東京神奈川森林管理署）」、令和元年6月に「茨城県フォレスター等連絡協議会（茨城県・茨城森林管理署）」が発足しています。

このうち、「茨城県フォレスター等連絡協議会」の活動内容をご紹介しますと、市町村森林整備計画作成支援、また、その一環として、民国連携推進地区に係る検討会、森林・林業活性化セミナー、ヒノキコンテナ苗の導入に関する現地検討会を開催しています。さらに森林共同施業団地等の設定に向けて、関係機関と共に候補地の選定、規模、施業内容の検討に取り組んでいるところです。



「茨城県フォレスター等連絡協議会」設立総会



関係機関と森林共同施業団地の検討している様子

関東森林管理局では、民国連携推進地区の取組みと合わせ、民有林への支援の取組みを局・署一体となって推進し、森林整備・保全、林業の低コスト化を着実に実践することにより、地域林業の活性化に貢献していきます。引き続き皆様方の民有林との連携の取組みに対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



日本で現在栽培されているきのこ Part3



クロフクロタケ（ウラベニガサ科 フクロタケ属）

7月下旬から9月中旬に堆肥やウッドチップなどの上に散生から群生する。

カサは4 cmから1.6 cmで黒褐色から黒色で老成すると灰白色になる。

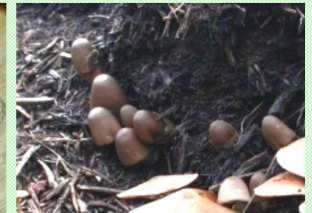
柄は4 cmから7 cmで表面は白色で、下部に灰色の外被膜（ツボ）があり、上部には、白色の内被膜（ツバ）がある。

ヒダは始め白色で胞子が成熟するとピンク色から肉色になり、柄に離生する。

栽培品は幼菌の時の外被膜が破れる前に収穫して販売している。



栽培



天然

マンネンタケ（靈芝）（薬用）（マンネンタケ科 マンネンタケ属）

7月上旬から9月中旬に広葉樹の切り株上に単生から散生する。

カサは半円形で5 cm～1.5 cmで始め黄白色で成長すると黄褐色から暗褐色になり、光沢がある。裏面は白色で管孔です。

柄は8 cm～1.5 cmで暗褐色です。





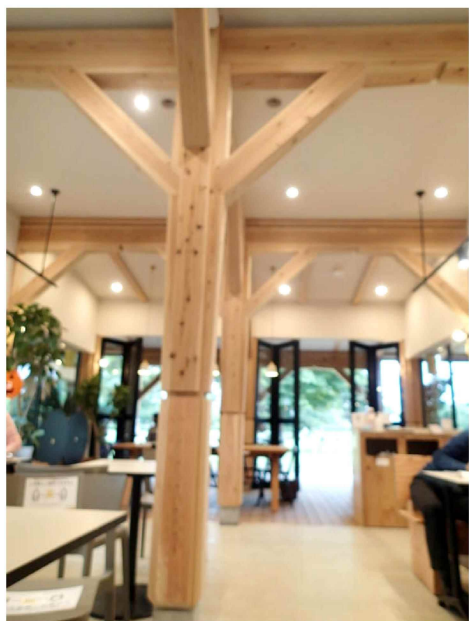
# 都市部における木造建築

東京23区内の都市部においても、公共建築物等における木材利用推進方針が、これまでの8区に加えて、今年9月には江戸川区で策定されました。このような中で、民間建築物での木材利用の動きも活発化しています。

今回、東京事務所近隣（江東区）における国産木材を利用した木造建築物を取材してきましたのでいくつか紹介します。詳細については、東京事務所のHPにも記載していきます。

## 1 「Park Community KIBACO」

当事務所の隣の木場公園の中にPark Community KIBACOという名前のカフェとマルシェが併設されたお店がオープンしました。屋上緑化された木造の建物です。木場公園は防火地域に指定されており、木造の建物を作るのには厳しい制限があるのですが、それをクリアし、ほぼ国産の木材で建てられており多摩産材も使われています。180mm×180mmの無垢材を柱に使用しており樹状方杖という構造です。外壁は、サーモウッドという高温処理され強度が増したスギ材が使われています。これから木育のイベント等も開催するそうで、昔貯木場や材木屋が数多くあったところに出来た木場公園の歴史を受け継いだ特色ある建物となっています。

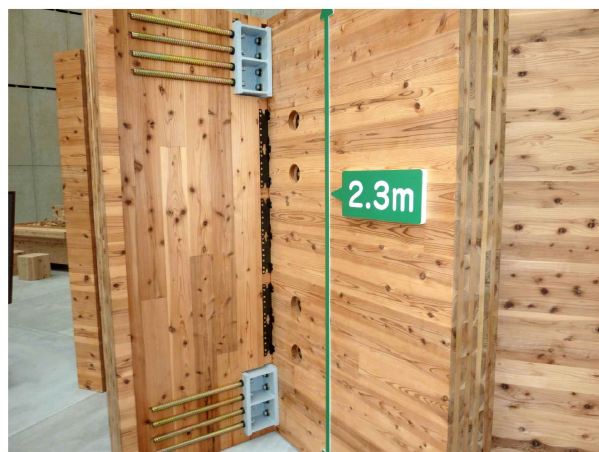
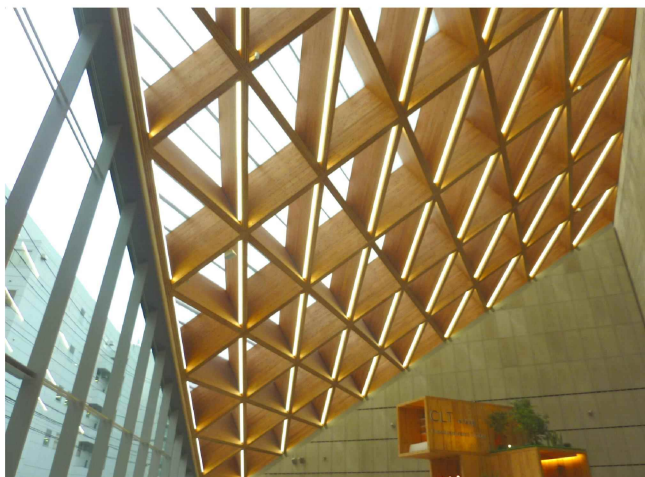




## 2 CLT屋根のROOFLAG賃貸住宅未来展示場

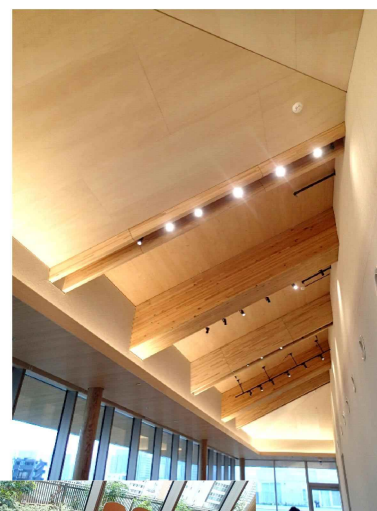
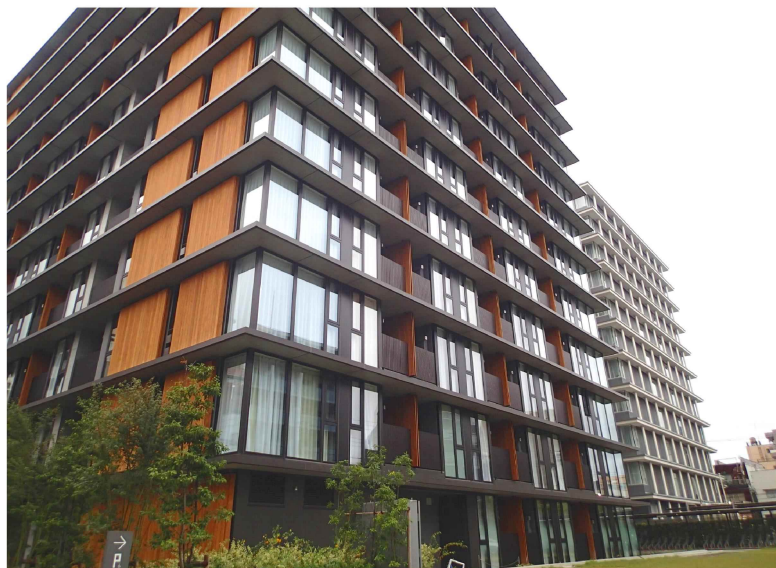
大東建託が江東区東雲に、賃貸住宅への新たな発見や驚きを通じて”未来の暮らし”を感じることができる情報発信施設 ROOFLAG賃貸住宅未来展示場を6月にオープンしました。

ルーフラッグ（屋根と旗）は、長辺が60mの大屋根にCLTを梁としており、大屋根はパネル128枚からなる三角形100個で構成され、梁として使用しているCLTは長さ11.8m×幅2.3m×厚さ27cmとなっています。接合部分は同社オリジナルの金属ボックス型で接合し、CLTは岡山県・高知県・熊本県のスギ国産材500m<sup>3</sup>を使用しており、展示場の中には、CLTの作り方と緑の循環等の説明や昔から現代の林業のジオラマなどが展示されています。また、同じ施設内には、同社オリジナルCLT工法の3階建て共同住宅（フォルターブ）も併設されています。



## 3 都市型木造建築

竹中工務店が江東区東陽3丁目に、ほぼ国産木材を利用した12階建ての単身者向け共同住宅「フラッツウッズ木場」を建築し、今年3月にオープンしました。柱や梁は燃えにくい燃エンウッドという耐火集成材・丸型耐火集成材、床や屋根プレースに27cmのCLT・CLTエストーンブロックと外装は熱処理木材を使用をし、これからの都市部での木造・木質化建築を実現する次世代木造技術となっています。木材の使用量は約157m<sup>3</sup>です。





# 小笠原の豊かな自然を後世に残すために ～台風21号が小笠原に与えた影響～

## 小笠原諸島森林生態系保全センター



令和元年10月24日、小笠原諸島に台風21号が最接近し、村内各地に多くの被害が発生しました。森林生態系が受けた被害も甚大なもので、一年後の今日までその影響は続いています。その被害と今後についてお話しします。

昨年台風といえ、台風19号の被害の方が印象に残っている方も多いと思います。小笠原でも19号の被害が全くなかったわけではありませんが、その約2週間後、直撃コースを辿った21号の被害の方が甚大でした。

写真1は台風後、母島の石門をドローンで撮影したものです。写真判別により倒木の箇所を○をつけています。この場所は倒木の多い箇所ですが、各地でも多かれ少なかれ倒木が発生していました。

これにより林内の状況は一変し、暗かった林内に光が射すようになりました。通常であれば在来種の若木が生長するのですが、外来種が侵入しつつある林内においては、そちらが早く成長してしまいます。写真2は母島石門の林内ですが、外来種であるパパイヤが多数繁茂しているため、これからの変化を注視する必要があります。このまま生き残る様であれば、駆除も考えていくこととなります。

また、倒木の別の側面として、台風前に利用していた現場までの歩行ルート等も被害を受け、通行が困難な状況になっていました。こちらの復旧にも多大な労力を要しました。

他にも、塩害で葉を落とし枝先が枯れる植物も発生するなど、倒木に至らなくても森林に与えた影響は少なくありませんでした。これについては外来種のアカギやギンネムなども被害を受けており（写真3）、一時は樹勢を弱めていたので完全に悪い影響だけでもありませんでした。とはいいつつも、完全に枯れたわけではなく春先の雨によって回復しつつあるため、こちらも今後の状況を注視する必要があります。

また植物以外でも、小笠原固有の鳥類であるアカガシラカラスバトの確認数が一時減少

するなど、動物に与えた影響も多分にあったようです。

かつて1983年の台風17号の際には、風倒木の跡にアカギが侵入し、その後のアカギ拡大のきっかけとなってしまった事がありました。

自然を相手にしている以上、災害は避けられない部分ではありますが、それによる変化を見極め、適正な対策を採っていくことで、小笠原の貴重な自然を守っていきたいと考えています。



写真1 ドローンから見た倒木状況

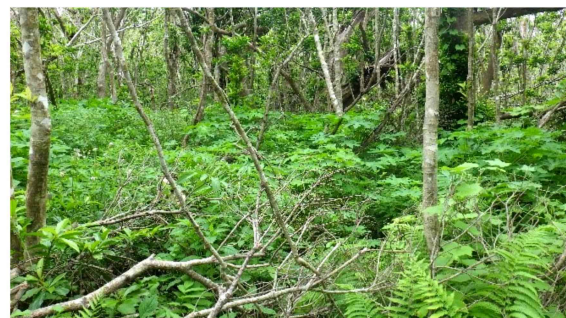


写真2 パパイヤの繁茂

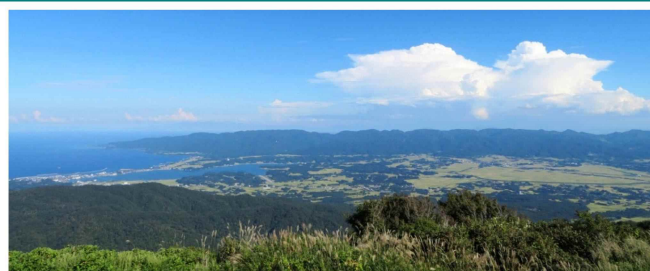


写真3 枝先の葉を落としたギンネム



# 森づくり最前線

下越森林管理署 佐和田森林事務所  
森林官 中西 智也



私の勤務する佐和田森林事務所は新潟県沖に位置する佐渡島の佐渡市にあり、関東森林管理局管内で、唯一離島にある森林事務所になります。

佐渡島は、北部の標高1,000m級の山々が並ぶ大佐渡山脈と南部の比較的緩やかな小佐渡山脈、それらに挟まれたように広く平坦で稲作が盛んな国仲平野が広がっています。

海岸線延長は、約280kmあり、広さも約855km<sup>2</sup>と日本の離島では沖縄本島に次ぐ大きさです。

観光としては、佐渡金山や特別天然記念物のトキが生息している島として有名です。

当事務所は、小佐渡山脈の中央に位置する国有林約1,000haと島内に点在する官行造林地を管理しています。



佐渡島の国有林は、絶滅状態にあった国産トキの保護のため、昭和37年度から昭和45年度にかけて買入れたものです。そのため、当事務所管内には人工林が少なく、大半が広葉樹の天然林となっています。また、全域が鳥獣保護区となっており、このうち、約6割が特別保護地区に指定されています。

また、佐渡島の伝統芸能「鬼太鼓」に使われる太鼓やバチの材料となる樹を育てるため、平成19年に佐渡市長を会長とする「『鬼太鼓の森づくり』協議会」と当署が「国民参加の森林づくり」活動のうち「木の文化を支える森」に係る協定を締結し、旧新穂村の国有林内「鬼太鼓の森」で、太鼓の胴の材料となる大径のケヤキやトチノキ、バチの材料となるホオノキやヤマザクラ、そして佐渡市の木で、太鼓を載せる山車に用いるアテビ（ヒノキアスナロ）などを植栽し育てています。

なお、市民の手で育林作業などを行うイベントも開催しています。

将来、この森の木で作られた太鼓の音色が島に響き渡ることを願い……

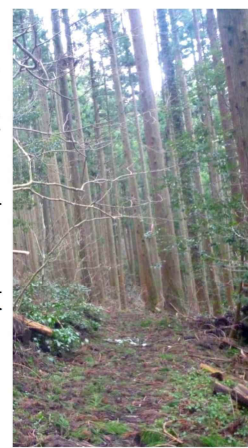
(今年は、コロナ禍の影響もあったため、協議役員及び事務局員の計6名で、ケヤキ15本、ヤマザクラ10本、アテビ30本の合計55本の植栽と下刈り作業を実施しました。)



島内のスギ人工林は、新潟県本土のスギ人工林と違い、通直で年輪が細かいことから、佐渡産スギとして注目を浴びているところなので、今後は、佐渡産スギのPRを含め、民有林と国有林とが手を結ぶ「民国連携」を推進し、木材の協調出荷を目標に県や市とともに連携していきたいと考えています。

佐渡での生活も2年目を迎え、ようやく慣れてきたように感じます。

地元関係機関との打合せや会議等で様々な人と会う機会が多く、職員一人で大変な面もありますが、引き続き、頑張っていきたいと思えます。





# 新型コロナウイルス感染症に伴う 木材需給動向と国有林材の供給調整の取組 資源活用課

関東森林管理局では、「令和2年度 第2回関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を令和2年9月30日（水曜日）に前橋市で開催し、関東森林管理局管内の木材価格及び木材需給動向についての報告のほか、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた、国有林材の供給調整対策について検討しました。

これまで、国有林材の供給調整については、「立木販売物件の搬出期間の延長」、「立木販売新規物件（一部）の公売の延期」、「生産請負事業等における供給調整」を行い、管内の木材需給の動向を注視してきました。

委員会では、「現在取り組んでいる国有林材の供給調整を継続するとともに、販売を延期している立木販売の新規物件について、販売の延期を現段階で解除すべきではないものの、今後、解除する場合は、川中での原木の在庫状況や落札率、川下での製品の動きや在庫状況等の需要動向を注視しながら、地域毎に柔軟に対応していく」との検討結果となりました。

関東森林管理局では、本検討委員会での報告を受け、現在取り組んでいる国有林材の供給調整を継続するとともに、各地域の需要動向など総合的に勘案しつつ、解除する数量や時期については、地域毎に柔軟に対応していくこととしています。



## 今月の表紙

「日本百名山の甲武信岳山頂」

「甲武信小屋からの日の出」「荒川水源の碑」(撮影：埼玉森林管理事務所)

道中可愛いお出迎えもありました。



埼玉森林管理事務所管内の国有林には、避難小屋を含め八つの山小屋があります。

今回、山梨県との県境にある2000m級の山々が繋がる、甲武信小屋から雁坂小屋の巡視を実施しました。一日のコース・タイムは6時間以上、2泊3日で作業を行い、膝も顔も笑いが止まらなかった様です。

この地域は秩父多摩甲斐国立公園、秩父山地森林生物遺伝資源保存林に指定されています。令和元年6月には、国内10番目となる甲武信ユネスコエコパークに登録されており、甲武信ヶ岳（2475m）、雲取山（2017m）等の日本百名山に挙げられる山々が連なる奥秩父主稜を中心に、荒川、多摩川等の源流部となっています。



発行所 関東森林管理局  
編集 総務課  
TEL (027)210-1158  
FAX (027)230-1393